

科目名	産業心理学			ナンバリング	PSY561	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	末次晃	担当教員	大原貴弘、大島典子				

授業の概要	心理学の応用分野である産業心理学について概要を学ぶ。心理学は基礎的分野と応用的分野とに分けられる。基礎的分野では、基本的、普遍的な人の心のはたらきや機能について研究する。一方、応用分野では、そうした基礎的分野での知見を現場に適用し、問題の解決を図ろうとする。また、基礎的な研究では分からなかった現場特有の課題を見いだし、基礎分野へフィードバックする。産業心理学は、産業場面、すなわちはたらく現場で生じてくるさまざまな心理学的課題、人的資源管理(採用、評価、キャリア教育、安全性の確保、消費者行動、職場でのメンタルヘルス等)の解決を目指す。本講義では、基礎的分野での知見を確認しながら、それらがはたらく場にどのように適用され、どういった課題が見つかり、それにどのように対処すべきなのか、具体的事例を交えながら、理解することを目的とする。		
到達目標	1. 「はたらく場面」に特有の心理学的課題・問題に関する基礎的知識について説明することができる。 2. そうした「はたらく場面」で生じる心理学的課題や問題について、心理学的知見を踏まえて、自分ならどう対処するかを考え、対応策を提案できる。 3. 基礎心理学の知見を応用的に特定の場面に当てはめる観点、方法を身につけ、それを具体的に説明することができる。		
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	この分野を体系的に理解するために、キーワードおよびキーワード間のつながりを理解するように努力することが望ましい。また、授業外学習で指示された予習は必ず実施しておくことがより深く、包括的な理解を促すことに留意し、準備を進めておくこと。また、この分野は応用分野であるため、大学生活のさまざまな面とつながりがある。授業で学んだことを日常の中で活用することを考えながら、受講してもらいたい。		
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】		
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。	
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。	
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。	
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。	
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。	

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 「はたらく場面」に特有の心理学的課題・問題の基本的な点を説明することができる。 2. 「はたらく場面」で生じる心理学的課題や問題について、自分ならどう対処するかを考え、対応策を提案できる。 3. 基礎心理学の知見を応用的に特定の場面に当てはめる観点、方法について説明することができる。	1. 「はたらく場面」に特有の心理学的課題・問題について、3つ以上の具体例を挙げて説明することができる。 2. 「はたらく場面」で生じる心理学的課題や問題について、研究例を上げながら、自分ならどう対処するかを考え、対応策を提案できる。 3. 基礎心理学の知見を応用的に特定の場面に当てはめる観点、方法について、具体例を交えながら分かりやすく説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		90%
宿題・授業外レポート	○	○			○		10%
授業態度・授業への参加							
出席状況							欠席により減点する場合もある。

課題、評価のフィードバック	小テストの採点結果をフィードバックする。また、テスト解説に時間をとることもある。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	産業心理学とはどのような学問分野か？ (末次)	産業心理学の問題意識、発展の歴史など、今後の授業に必要な前提知識を解説する。	
	第2回	人的資源管理 (末次)	人事評価、評価者の対人認知のバイアス、帰属理論、平均以上効果、採用人事、キャリア発達と学習、能力開発	
	第3回	リーダーシップ (末次)	リーダーシップとは何か、リーダーシップ・スタイル、PM理論、状況即応アプローチ、変革型リーダーシップ、応用行動分析とリーダーシップ、リーダーの帰属スタイルなど	
	第4回	集団の意思決定 (末次)	集団と集合、集団凝集性、社会的促進と抑制、社会的手抜き、集団での課題遂行、組織での意思決定、サンクトコストへの固執、集団極性化、集団的浅慮(グループシンク)など	
	第5回	はたらく意欲 (末次)	ワークモチベーションとは、内容理論と過程理論、欲求階層説理論、動機づけ－衛生理論、達成動機理論、内発的動機づけ、期待理論、衡平理論、など	
	第6回	まとめ (末次)	ここまでの内容のまとめと小テスト	
	第7回	労働災害と不安全行動 (大原)	労働災害、ハインリッヒの法則、不安全行動、ヒューマンエラー、スリップ、ラプス、ミステイク、違反行動	
	第8回	ヒューマンエラーに関わる生理・心理的要因 (大原)	エラーに関わる生理的特性、注意・知覚特性、認知・判断特性、反応特性、集団特性	
	第9回	違反行動とリスクテイキング行動 (大原)	フールプルーフ、フェイルセーフ、違反行動、リスクテイキング行動、リスク傾向	
	第10回	消費者による価格の判断 (大原)	プロスペクト理論、感応度逓減性、損失回避の法則、参照価格、アンカリング、フレーミング効果、サンクトコスト効果、保有効果	
	第11回	消費者による意思決定 (大原)	心理的財布、メンタルアカウンティング、おとり効果、妥協効果、精緻化見込みモデル、中心ルート、周辺ルート	
	第12回	労働者の心の健康の現状と対策 (大島)	近年の労働場面のメンタルヘルス、厚生労働省の指針	
	第13回	現代社会における産業臨床に関する問題 (大島)	うつ病、自殺問題の現状と対策	
	第14回	産業臨床に関する対策 (大島)	ストレス性疾患、うつ病、ストレスチェック制度	
	第15回	復職支援 まとめ小テスト (大島)	休職と復帰プログラム 12～15回分、まとめ小テスト	
	試験	定期試験は実施しない。まとめの小テストを実施する。		
授業の進め方		講義と質疑応答。2～3回の小テストを実施する。なお、講義の冒頭で各自で調べてきたメモの内容を発表させることもある。		
授業外学習の指示		シラバスにて次回の講義内容を参照し、記載されているキーワードについて各自で調べ、メモとしてまとめておくこと。また、授業終了後、各自で作成したメモと授業の内容を照合し、整理しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用せず、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	とくになし。
その他	追加資料の配付、小テスト、小レポートにmanab@IMUを使用することがある。